

2016年度理事長所信

第62代理事長 古澤 清

はじめに

～人の「心」は、人との関わりによって磨かれ、成長する～

私は青年会議所に入会し11年目を迎えます。22才で父が創業した会社を継承し、経営が軌道に乗り出すと、更なる自己成長を求めて次なるステージを模索し、青年の学び舎である堺高石青年会議所へ入会いたしました。入会当時26才だった私は、諸先輩方から沢山の学びをいただき、今日に至ります。「会社は社長の器以上に大きくもならないし良くもならない」「自分の器を広げるには、異論を受け入れ修練を積むこと」と教わり、「JCで自分の器を広げて、いい会社を作ってやる」と固く決意し、「なんでもやります!」と、今日に至るまで青年会議所運動に邁進してまいりました。

昨年、創立60周年という大きな節目を迎え、各種記念事業を行った中で、堺高石青年会議所の長きに渡る歴史を再確認する機会に触れ、諸先輩方が築き上げてこられた地域への功績を深く理解できるきっかけをいただきました。その想いをしっかりと受け継ぎ、創立70周年に向けさらに飛躍できる長期運動指針を掲げ、産官学金労言と連携強化を図り地域への発信力を高め、ひとづくり、まちづくり、組織づくりの3本の柱で、誇れる堺高石青年会議所へと押し進めてまいります。

昨今、世界を取り巻く情勢は、日を追う毎に著しい変化を遂げております。今日の常識は明日には古くなるように、次々と新しいものが生まれ、また、次々と古いものが消えていきます。政治・経済をはじめとする国際情勢が目まぐるしく変化する中、目に見えるものだけに惑わされることなく、原理原則に従い物事の本質を捉え、人の「心」の在り方を、人との関わりや地域社会との関わりの中で、磨き続けなければなりません。

堺市・高石市のまちづくりについて

昨年、私たちも参画し、地域が一丸となり取り組んだ百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録への挑戦は、惜しくも国内推薦を獲得することができませんでしたが、世界に誇れる堺の地域資源を引き続き世界に向けて発信することが必要です。また、堺市・高石市の社会福祉協議会と災害時の相互支援協力協定を結びました。防災意識を高め、災害支援の連携の取れる安心・安全なまちづくりが大切であります。そして、私たちJCメンバーが、より地域への関わりを深め新たな地域の魅力を発掘し、それを日本国内のみならず全世界へ発信できる環境を作ることが求められています。そのためにも、JCIのネットワークを生かし、日本全国、アジア全域、全世界へと目を向け、大規模大会の誘致等の機会を活用し堺市・高石市の魅力を全力で発信してまいります。

観光文化資源の新たなかたち

堺市・高石市には、千利休や与謝野晶子などの魅力溢れる偉人の功績や様々な文化資源があり、観光資源としても多く活用されつつあります。しかしながら、歴史文化に精通している全国のファンは、この堺市・高石市の地を訪れますが、観光地としての市民意識がまだまだ醸成されておらず、行政・地域・市民の連携が希薄であるがゆえ、地域資源の魅力を十分に活用されていない現実に目を向けなければなりません。そして、現存する地域の文化資源の中で特に市民の参加意識が高く、老若男女が楽しめる文化資源にスポットを当てます。その各主催団体と連携強化を図り、既存の文化資源の本来の必要性を伝えつつ、市民から愛される観光事業としてのプロモーションをおこない、堺市・高石市らしさが溢れ、全国、全世界から注目されるような観光文化資源の新たなかたちを創造してまいります。

地域事業の更なる活性化

堺高石青年会議所の諸先輩方は、60年の長きに渡り、地域のリーダーとして汗をかき、地域に深く関わり市民の皆様と共にこのまちを活性化してまいりました。当LOMが先駆けて新しいかたちを作ってきた、堺シティマラソンをはじめ、堺大魚夜市、わんぱく相撲堺大会など、多くの市民の皆様の賛同を得て、地域をより活性化させるための手法として、民間団体への事業移管を積極的におこなってまいりました。それと並行して青年会議所は、新たな運動のかたちを模索すべく、これまでも様々な新規事業を行ってまいりました。創立70周年に向けた新たな「まちのかたち」を創造することも大切ですが、今一度、地域事業を側面支援し、主催団体と連携強化を図り、多くの市民の参画意識を向上させ、若く、柔軟な考えを導入することにより地域事業の活性化を図ります。

堺市・高石市とより深い関わりを持つ

私たちが住み暮らす堺市と高石市の人口を合わせると約90万人となります。私たちはこれまでも規模の違う行政を跨ぎながら、地域の様々な問題に果敢に挑み運動発信をしてまいりました。本年度は、長期運動指針で掲げました地域活性事業の一環として、今日まで堺高石青年会議所と関わりをもっていなかった団体の既存事業の活性化に向けて、協力や連携を働きかけてまいります。また、堺市の7つの区と高石市を合わせた8エリアへ青年会議所のマンパワーを投入し、深く関わることで、今までできなかった新たな事業のかたちを創造することができます。あわせて、JCメンバー一人ひとりが、地域で活躍している団体と連携を推進することで、今まで以上に地域のことを理解し相互扶助の関係を築き上げ、現場から地域を活性化できる機動力に富んだ新事業を創造してまいります。

まちづくりはひとづくりから始まる

40歳で卒業を迎えるJAYCEEは、活力溢れる青年期に様々な事業に取り組むこと

により、人間力を高めることを目標の一つに掲げています。まちづくりを通じてひとづくり、ひとづくりを通じて自分づくりに向き合うことこそが、そのスタートとなります。メンバー一人ひとりが青年経済人であり、仕事や家庭をはじめとして個々に守るべきものがあり、そこには多くの責任が生じます。まずは、JC運動に精一杯、邁進する環境を整えるために、各々が営む経済活動の責任を全うすることが肝要です。経済活動を拡大するのも縮小するのも、メンバー一人ひとりの「心」の在り方で全てが決まります。経済活動を円滑に営むために、メンバー同士の関わり合いの中、「心」を磨き合い、大きく成長させる、気付きや学びとなる自分づくりの機会を最大限に提供してまいります。

親世代として家族と向き合うことの大切さ

JAYCEEには、親世代として家族の「心」とも向き合う責任があります。どんなに良い事業を実施しても、どんなに良い経済活動を営んでいても、家族の「心」と向き合うことができなければ、明るい豊かなまちづくりは絵に描いた餅で終わってしまいます。地域の問題点を見つけ、地域を活性する前に、家族とメンバーの「心」の相互理解を促進し、家族愛を深めることが大切です。親兄弟の「心」、パートナーの「心」、子どもの「心」、自らの人生には家族の「心」があふれております。青年会議所は率先して行動することを宣言する団体であり、家族の「心」への関わりもメンバー一人ひとりが率先して行動することから全てはスタートします。家族に良い変革を求めるなら、まずは自分から率先して「心」の変革に挑戦し、親世代として背中を見せることが肝心であります。

青少年の健全な成長

地域には様々な青少年の健全な成長を促す事業や取り組みがあります。特に武道やスポーツなどを通じ、幼少期より礼儀礼節と協調性を育むことや、努力することの大切さを体験することはとても大切です。その結果、勝つことの喜び、負けることのくやしさを体験することが子どもの健全な成長に大きく影響を与えるため、非常に重要であると認識しております。今一度、わんぱく相撲などを通じて、堺市・高石市の教育委員会と学校現場との連携を強化し、若さと行動力溢れる堺高石JCメンバーが堺市7区と高石市を合わせた8エリアへ参加促進を促し、側面から事業支援をおこないます。より地域への関わりを深め、市民の皆様へ運動発信をおこない、堺市・高石市から明るい未来を牽引していけるような青少年育成の目標を掲げ、市民の参画意識を喚起できる環境をつくってまいります。

スポーツによる地域活性

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催も決まり、スポーツを通じた健康づくりへの意識が高まる中、堺市・高石市の地域においても、様々な競技において有名スポーツ選手が多く輩出されており、スポーツに親しみやすい地域性があります。また、多くのスポーツチームなどの団体が堺市・高石市を拠点に活動しており、各々の種目で、地

域を代表して活躍されております。しかしながら、私たちの日々の生活の中では、地元出身とはいえ第一線で活躍される有名スポーツ選手を身近に感じる機会は少なく、非常に遠い存在に感じます。堺高石青年会議所としては、これまで以上にスポーツという切り口に着目し、市民の皆様と協働し、スポーツに関わる意識や、地域スポーツへの参加意識を向上させることで、スポーツを通じた人格形成をおこない、健全で自立した行動のできる市民の育成へとつなげてまいります。

会員拡大・研修の更なる飛躍に向かって

現在、青年会議所は全国に697LOMあり、2016年1月現在では全国有数の会員数を誇る大規模LOMとなりました。JCしかない時代からJCもある時代となり、日本全国の青年会議所の会員数が著しく減少している中、直近10年間で倍増しているLOMは全国でも稀であることは誇りであります。年度末での全員拡大、期限を決めた一括入会など、拡大担当者を中心とした拡大手法がLOMに浸透している結果であります。しかしながら、3年未満のメンバー比率が増える中、出席率向上や退会率減少の改善が伸び悩んでおります。今までの会員拡大成功の流れをさらに加速するためには、入会年数や経験に応じた研修によって一人ひとりの資質向上が今まで以上に必要となっております。会員拡大と会員研修の両輪でLOMを活性化してまいります。

今まで以上の会員拡大・研修のかたち

日本全国の青年会議所の半数近くは30人以下のLOMとなっている現状があります。過疎化地域では会員数の減少や次世代を担う若手不足で事業所数が減り続けている問題など、会員拡大への向かい風は深刻であり、存続するための会員拡大の意識は非常に高くなっております。しかしながら、堺市・高石市は人口や事業所数の減少がまだまだ緩やかであるがゆえに、その様な危機意識が低く、新たな拡大手法やターゲットを絞り込んだ拡大など、さらに踏み込んで拡大を工夫することができておりません。本年度は会員拡大研修委員会を2委員会置くことで、現状に満足することなく、さらに多くの拡大手法を駆使し、今までの拡大ではできなかった斬新な拡大手法や研修手法など、新たな取り組みをおこなってまいります。

有機的な組織運営、JC会館の効率的な運用について

本年度は、大規模な組織をより運営しやすくするために、JC会館の管理、ホームページの運用、そして、理事会・総会の設営、財政規則審査会議など、事務局を中心とした一つの組織体で構成します。そうすることで、よりスピーディーな連携が取れ、対外へ迅速に情報発信できる有機的な組織運営をおこなってまいります。日進月歩で進化していく多様性あるITの活用効率を上げ、JCメンバーや市民の皆様にタイムリーな情報伝達ができる運営をおこないます。また、JC会館においては、シニアクラブの諸先輩方にも立ち

寄りやすいかたちを模索し、市民の皆様に慣れ親しんでもらえるような明るい豊かなまちを創造していく団体として、発信力ある管理運営をおこなってまいります。

最後に

諸先輩方は、長きに渡り明るい豊かなまちの創造に大変ご尽力されたことと存じます。たゆまぬ努力と流した汗で沢山の功績を残し、私たち現役メンバーは学びや気付きを与えていただき、その上でJC運動を展開しております。そして、創立60周年が経ち、全国有数のLOMとなった堺高石青年会議所を、更なるステージへステップアップさせることが必要であります。そのためには、より地域へ深く運動展開し、次世代の人財の「心」を磨き、育て上げることが必要であります。一昔前の時代背景と違い、現在は多種多様な団体が存在しております。JCもある時代だからこそ、失敗を恐れず、汗をかいて英知を集結し、若いパワーで深く地域と関わり、リーダーシップを発揮することで、JCの存在感を今まで以上に発揮していきます。そして、より地域へ、より日本全国へ、そして世界中へJC運動を通じ、この素晴らしい堺市・高石市を発信し、明るく「心」豊かなまちづくりに邁進してまいります。